

■ 学校の共通目標

授業づくり	重点	①タブレット端末をフル活用し、児童一人一人の個別最適化学習を推進する。 ②教師と児童で授業を創り、問題解決型の学習を進めていく。 ③授業のユニバーサルデザイン化を推進し、自分に合った多様な学びへの授業改善と、児童一人一人が分かりやすい授業づくりを展開する。	中間評価	①全教員の週案等に、タブレット端末の活用予定を明記させ、意図的・計画的に毎日全学級で活用するとともに、家庭学習においてもタブレット端末を活用したドリル学習や調べ学習を実施することにより、 個別最適な学び を推進している。 ②チャイムで始まりチャイムで終わる学習規律を徹底している。また、授業の導入等を工夫し、児童の興味・関心を高めるとともに、一単位時間の狙いを明確にした 問題解決的な学習 を推進している。 ③教室環境のユニバーサルデザイン化を推進し、授業に集中できる環境創りに取り組んでいる。また、タブレット端末だけではなく、ICT機器を活用し、児童にとって分かりやすい授業を展開できるよう、学年ごとに週一回の学年会等を活用し、教室環境や学習方法について確認している。	最終評価
		①児童が安心して学校に通えるように、新型コロナウイルスの感染防止策を徹底するとともに、安全・安心を第一に考え、学習に集中して取り組める環境を整える。 ②互いに認め合い励まし合える学級づくりを進めるとともに、ICT機器等を効果的に活用し、学習効果を高める。 ③常に保護者・地域と連携し、教育環境を整え、児童が学びに向き合い、自ら考え行動する教育を推進する。		①校内における新型コロナウイルス感染拡大防止策を継続して徹底し、臨時休校や、学年・学級閉鎖等を行うことなく、教育活動を進めることができている。 ②各学級において、友達の良さを見つけたり考えを共有したりすることにより、互いの理解を深め、よりよい学級づくりを“みんな”で目指している。また、 一人1台 のタブレットと教室配備のプロジェクター等のICT機器を効果的に活用している。 ③学校が率先して新型コロナウイルス感染拡大防止に努めるとともに、家庭・地域と連携し、感染拡大防止に向けて共通理解を広げている。また、コロナ禍にあっても、児童一人一人が何事も前向きに考えて行動できるように学習環境協働して整備している。	

■ 学年の取組み内容

学年	教科	学習状況の分析（10月）	課題（10月）	改善のための取組み（10月）	最終評価（2月）
1	国語	・タブレットのアプリを使用することで、書字が難しい児童でも抵抗感が少なく、新出文字の練習をすることができている。しかし、今まで使用していたドリル形式のものに、繰り返し文字を書いて練習をする機会が少なくなったため、定着が弱い。 ・文章を書きたいという意欲はあるが、「書きたいことはあるが、どう書けばいいかわからない」という児童がいる。	・何度も繰り返し練習をして、文字の定着を図る必要がある。 ・書きたいことを表現できるような支援が必要である。	・宿題プリントや小テストなどを活用して、文字を書いて覚える機会を確保する。 ・共通題材で文章を書く練習や、例文を読むことを意図的に組み込み、文章の型を提示する。また、語彙を増やすため、日常的に読み聞かせを行ったり、学校図書館を毎週効果的に活用するとともに、気軽に本を読めるように、学級文庫も充実させる。	

	算数	<ul style="list-style-type: none"> ・単純な計算問題は正答率が高いが、数の合成・分解には時間がかかる児童がいる。 ・文章問題の意味理解が難しい児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・数の合成・分解の理解を深められるよう指導する必要がある。 ・加法・減法の意味を理解するための支援が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・数量や図形などについての基礎的・基本的な概念や性質などを理解するために、ブロック等の操作活動を取り入れたり、タブレット端末を活用してイラストを移動させたりして、視覚的・体感的な活動を取り入れ、数の合成や分解の理解を深める。 ・文章題を読むときに、加法・減法の確認をする習慣をつけるため、大切なキーワードに気付き、線で囲む(下線を引く)よう指導する。 ・図を用いて考えるなどして数学的な考え方の基礎を身に付けるための活動を多く取り入れる。 ・自分の考えをもたせるため、自力解決の時間を確保し、自分考えた意見を友達に伝えたり、友達の考えをノートに書き写したりする学習活動を行う。 		
学年	教科	学習状況の分析(4月)	課題(4月)	改善のための取組み(4月)	中間評価・追加する取組み(10月)	最終評価(2月)
2	国語	<ul style="list-style-type: none"> (学) 新出漢字練習や学習、読書に対して意欲的に取り組もうとしている児童が多い。 (学) 文字の定着、平仮名の字形、「てにをは」や小さい「や、ゆ、よ、つ」を文章の中で正しく使うことの定着には個人差が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えを分かりやすく文章に表したり、正しく文章に表したりすることに苦手意識をもっている児童がいる。 ・相手に伝わるように話し、大切なことを落とさずに聞くことに課題がある児童がいる。 ・文章を書く際、「や、ゆ、よ、つ」を文章の中で正しく使うことに個人差が生じている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・タブレット端末のまなびポケットなどの学習アプリを活用し、反復練習をすることで、漢字の定着を図る。 ・様々な教科で自分の考えをもたせ、文章化する機会を多く作る。 ・一年間を通してスピーチを行い、相手に伝わるように話す力、興味をもって聞く力を身に付ける。 ・授業の中で、ペアの話合い活動を設定し、「聞く」「話す」力を育てていく。 ・漢字の学習では、新出漢字を使った文章作りを行いながら、既習内容の漢字も使うように繰り返し指導する。 ・一人一人の進度や課題に合わせて学習ができるように、デジタル教材を活用する。繰り返し学習することで、基礎・基本の定着を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・タブレット端末のデジタル教材を活用し、反復練習をすることで、書き順に気を付けて漢字を書こうとする児童が増えた。 ・一人一人の進度や、課題に合わせてデジタル教材を活用することで、身に付けるべき基礎基本の定着を図ることができている。 ・感想を書くなど、自分の考えを文章に表す機会を多く作ることによって、少しずつ文章を書く力が身に付いてきている。 ・朝の会でのスピーチを継続的に行うことによって、相手に伝わるように話す力や興味をもって聞く力が着実に身に付いてきている。 ・ペア学習を意図的に取り入れることにより、友達に分かりやすく伝えようとする姿が見られるようになってきた。聞く力を高めるために、一斉学習で話の中で大事なことは何かを確認してから、を行うようにしていく。 	
	算数	<ul style="list-style-type: none"> (学) 意欲的に取り組もうとしている児童が多い。また、自分の考えをノートに書き表そうとする児童が増えてきている。 (学) 繰り上がりのたし算、繰り下がりのひき算の定着には個人差が見られる。特に定着に時間がかかる児童への指導は、今後も引き続き個別支援をしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な計算はできるが、考え方を説明することに苦手意識をもっている児童が多い。 ・基本的な計算をする力が定着していない児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・タブレット端末のまなびポケットなどの学習アプリを活用し、反復練習をすることで、理解の定着を図る。 ・問題解決的な学習を取り入れ、自分の考えを説明する機会を多く作る。 ・定着に時間を要する児童に対して反復学習を通して、計算問題が定着するようにする。また、計算の説明ができるように取り組ませる。 ・一人一人の進度や課題に合わせて学習ができるように、デジタル教材を活用する。繰り返し学習することで、基礎・基本の定着を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・タブレット端末のデジタルドリルを活用し、反復練習をすることで習熟を図り、基礎内容・既習事項の定着を図っている。また、課題に応じて、プリントを活用した課題に取り組むとともに、定規の使い方や作図などの実践的な技能の定着を図っている。 ・問題解決的な学習の中で、立式の根拠を明らかにするように指導していくことで、既習事項と結び付けて自分の考えを表すことができるようになってきたので、引き続き指導していく。 ・見直しや確かめを確実にしていくように、日常的に言葉掛けができるようになるまで指導していく。 	
3	国語	<ul style="list-style-type: none"> (学) 新出漢字や学習、読書に意欲的に取り組もうとしている児童が多い。しかし、シ・ツ、ソ・ンの書き分け、止め・はねを丁寧に書くことに課題がある。 (学) 状況に合わせた話し方と文の組み立て方に課題が残る。 (学) 聞く態度は良いが、集中して話の中心を落とさずに聞く能力がまだ十分に育っていない。 (学) 言葉のまとまりを意識して音読することに課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・字形を意識して正しく書くことに苦手意識を持っている児童がいる。 ・自分の考えを相手に伝わるように話すことや話を中心を落とさずに聞くことに課題がある児童がいる。 ・言葉のまとまりを意識して読むことに個人差が生じている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新出漢字の指導において、部首や止めはねはらいを意識させて書かせる。繰り返し漢字の練習に取り組ませるためにタブレットPC(デジタルドリル)を活用する。 ・日記など、日常的に書く活動を入れる。 ・発表単元や日記を紹介する時にタブレットで撮った写真や画像を使用させる。 ・年間を通して国語辞典を活用し、語彙力を高める。 ・授業において、ペアやグループでの話し合い活動を設定する。 ・言葉のまとまりを意識させるために、音読の際、句読点も読ませる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・筆順や字形を捉え、丁寧に書こうとする児童が増えてきた。そのため、作文を書く際に積極的に漢字を使用する姿も多くなった。しかし、新出漢字の定着までに時間を要する児童もいるため、タブレット端末を活用し、繰り返し定着するまで取り組ませる。 ・単元ごとに意味調べに取り組ませることで、言葉に対する興味・関心が高まり、語彙も増えてきた。また、主語と述語、修飾語などの理解が深まったことにより、文章構成に気を付けるようになってきた。さらに、状況に合わせた話し方や文の組み立て方ができるようになってきた。 ・ペアやグループでの話し合い活動を毎時間設定したことにより、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心をとらえ、自分の考えをもつことができるようになってきた。その際、話の中心を落とさずに聞けるようになってきた。 ・音読を毎日のように取り組ませたことにより、言葉のまとまりを意識した音ができるようになってきた。 	

	算数	<p>(学)学習意欲があり、真摯に課題と向き合っている児童が多い。</p> <p>(学)基礎計算力の定着に個人差が見られる。</p> <p>(学)道具の操作に苦手意識をもっている児童が多い。</p>	<p>・既習事項の定着に個人差が見られる。</p> <p>・式の意味を理解はしているが、自分の言葉で説明できない児童がいる。</p>	<p>・繰り返し計算ドリルやタブレットPC(デジタルドリル)に取り組ませ、基礎・基本の定着を図る。</p> <p>・課題に対する自分の考えを説明させるとともに、友達の考えと比較させ、よりよい解決方法を見いださせる。</p>	<p>・学習意欲は高いが、課題が難しいと感じ取ると、粘り強く取り組むことができない児童が見られるようになった。そこで、既習事項を使うと課題が解決でき、新しい考えを生み出すことができる楽しさを感じさせるよう授業の展開を繰り返し基礎計算に取り組ませるとともに、授業では考えを交流する時間を十分に確保していくことで効果が見られ始めている。</p> <p>・かけ算九九の定着に課題が残る児童もいる。そのため、かけ算九九を楽しく繰り返し取り組ませよう工夫している。</p> <p>・考えを図で示す時や筆算をする時に定規を必ず使用させてきたことにより、道具の操作は容易にできるようになってきた。今後、コンパスがスムーズに使いこなせるよう指導・支援していく。</p>
4	国語	<p>(調)本校の正答率は65.7%と、全国平均より1.7ポイント高いが、区平均より0.8ポイント低い。観点別で見ると「文章を書く」項目が25.8%と極端に低くなっている。他の項目は概ね全国平均を上回り、区平均と同等である。</p> <p>(学)ひらがなであっても字形を整えて書くことができない児童が多い。</p> <p>(学)考えたことや思っていることを、文章にして言葉や書字で表現することが苦手な児童が多い。</p>	<p>・自分の考えを分かりやすく文章に表したり、順序を考えて表したりすることに課題がある児童が見られる。頭では考えていることがあっても、それを文で表現する方法が分からない児童が多い。</p> <p>・一つ一つの字を丁寧に、マスや罫線に沿って書くことが難しい児童や字を丁寧に書く習慣がついていない児童が多い。</p>	<p>・まなびポケットのデジタルドリルを活用して、止め、はね、はらい、書き順に気を付けて書く習慣を付けさせ、字形の整った字を書く習慣を付けさせる。</p> <p>・授業後に書く学習感想や、理科の実験や観察から気付いたことを書く活動などを細かく指導するようにする。文章を書く際に、「～は」などの主語をはっきりさせることや、「～からです。」などの文末表現の仕方など、話型を伝えてから書かせることで、書き方を定着させていく。</p> <p>・授業中のノート指導や、漢字の書き取りやテストなどで、丁寧に書くことを根気強く指導していく。</p>	<p>・新出漢字の学習は、字形や書き順が間違っていると書き直しとなる、タブレット端末にある『まなびポケット』を活用することで、正しく覚えることができていく。ノートに練習をする課題も家庭学習として出しているため、引き続きデジタルとアナログを併用していく。また、一つ一つの字をマス内に納められないなどの課題がある児童もいるため、その都度丁寧に書くように指導している。</p> <p>・学習感想などの短い文を書く活動では、書く前につなぎ言葉や文末表現に気を付けるよう声を掛けたり、個別に指導をしたりすることで、意味の通じる文を書ける児童が増えている。どうしても書くことが苦手な児童には、例文を提示するなどの学習支援を行っている。</p>
	算数	<p>(調)本校の正答率は70.9%と、全国平均を2.9ポイント上回っているが、区平均を2.2ポイント下回っている。観点別に見ると「図形」の項目が全国平均、区平均共に大きく下回っている。</p> <p>(学)基本的な四則計算の技能や、考え方などの知識は習得している児童は多いが、算数が苦手な児童とそうでない児童の差がとても大きい。</p>	<p>・図形に関する用語などの知識は理解できているが、まっすぐ線を引くなどの作図の基本的な技能が苦手な児童が多い。</p> <p>・既習事項の定着に個人差がある。</p>	<p>・まなびポケットのデジタルドリルの「ベーシックドリル」と「パワーアップドリル」を活用して児童の習熟度に合わせた適用問題に取り組ませ、基礎基本の定着を図るとともに、課題に取り組むことが苦手な児童も意欲的に活動できるようにする。</p> <p>・普段の授業から、定規を使って線を引いてノートを書いたり、長さを丁寧に細かく計測させたりする習慣を身に付けるように指導する。</p> <p>・単元が始まる前に行うレディネステストの結果を活用して、単元ごとに特に苦手としている児童をしっかり把握する。基本レベルの少人数指導の人数を少なくし、個別支援の充実を図っていく。また、担任や少人数担当教員と、児童の学習の進捗状況を常に共有し、的確に各学級での補充の学習を進められるようにする。</p>	<p>・タブレット端末の「まなびポケット」を活用して、家庭学習や授業中の適用問題に取り組ませる。また、既習内容が定着していない児童には、前学年に戻って教師が必要と感じた課題を個別に出すなどの支援をすることで、基礎基本の定着・向上につなげることができている。</p> <p>・表やグラフを書く活動や、筆算の学習では定規を使ってまっすぐ線を引く習慣を付けさせることができた。後期には「垂直・平行な直線」を書く学習で作図をする活動があるので、児童一人一人の作図をする力をよく見て、必要な児童には個別に指導していく。</p> <p>・児童一人ひとりの苦手を的確に把握し、デジタルドリルのAI機能を活用して基礎基本の定着を目指していく。引き続き、児童一人一人の苦手としている単元を的確に把握しタブレット端末の「まなびポケット」などを活用して基礎・基本の定着を目指していく。</p>

5	国語	<p>(調)前年度の結果から国語全体を見ると、目標値・区平均を上回る結果となった。ただし、「書くこと」については目標値が8ポイント以上、下回っている結果となった。漢字を書く、文章に活用するといった点で課題が見られている。</p>	<p>(学)文章を書くことに慣れていない児童が多く、語彙力が児童によって大きく差がある。 (学)漢字を丁寧に書こうという児童が見られるが、字形を整えて書くことに課題のある児童が多い。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・デジタルドリルを活用し、漢字を反復練習することで既習事項の内容や新出漢字の学習を行う。 ・反復学習を多く取り入れ、基礎・基本の定着を目指したドリル学習を実施していく。 ・字形を整えて書くことができるように、日常的にドリルノートを活用して、確認していく。 ・漢字の習熟度を確認するミニテストを週1回行っていく。 ・他教科と横断的に学習を進め、漢字を活用する機会を増やしていく。(社会科の新聞作りなど) 	<ul style="list-style-type: none"> ・デジタルドリルの活用により、字形やはね、はらいなど意識をする児童が増えてきた。 ・国語科の読書感想文や社会科のはがき新聞の作成を通して、文字を書く機会を増やすことで、習得した漢字を日常的に使うよう指導してきたことにより、児童自身も漢字を使うように意識が少しずつ芽生えてきた。 ・ミニテストを行うことで児童の習熟度を確認し、結果に合わせて反復練習や再テストを行い、習熟度の確認を常に意識して取り組むようにしている。 ・文章を書いていく中で、要点をまとめることや、順序立てて書くことについて指導する必要があるということが分かった。国語の授業や社会の発表などを通して、発表に必要な準備や見通しをもって計画を立てること、タブレット端末をどのように活用していくか、相手を意識した話し方や伝え方などを授業、学校行事等の機会を活用して指導を行う。 	
	算数	<p>(調)前年度の結果では、目標値を上回っているが、区平均を下回る結果となった。分数の足し算・引き算や単位量当たりの大きさはよく理解しているが、奇数についての理解や小数のかけ算・わり算、作図に課題が見られた。</p>	<p>(学)集中して課題に取り組むことができる児童が多い。 (学)積極的に発言する児童に偏りがある。考え方を説明したり、言い回しを変えたりするなど、既習事項を活用して課題に取り組むことが苦手な児童が多い児童の実態がある。 (学)計算間違いが多い。単純な計算間違いから、小数点の位置、単位を変えて数字を表すなどで間違いが見られる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・デジタルドリルを活用することで、児童の課題に合った問題を選定する。反復練習し、課題を克服することで学力を向上させる。 ・ノートには自分の考えを記入している児童が見られることから、小グループでの短い時間での話し合いを取り入れる。 ・ノートを詰めて書いている、マスを意識していない児童が見られることから、1マスに1文字を書くようノート指導を行う。 ・計算が終わった後、必ず確認する作業を定着させていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・デジタルドリルを活用し、毎日の家庭学習や授業の適応問題に取り組ませ、学習を進めたことで、ノートに自分の考えをきちんと書くことは継続してできている。 ・自分の考えを自信を持って周りに話すことについてはまだ十分できていない。小グループで意見を伝え合う活動や、ミニホワイトボードに書くようにすることで、伝えたい内容を整理し、掲示したり、伝え合えたりすることができるようになってきている。児童の習熟度によって支援方法を考え、80%以上の児童が自分の考えに自信をもって伝えることができるよう指導する。 ・毎時間ノートを評価することで、ノート指導を徹底成果が上がってきている。 	
	国語	<p>(調)国語全体を見ると、目標値も区平均も上回っている。 (調)「書くこと」は、区平均を上回っているが、目標値より8ポイント以上下回っている。 (調)「漢字を書く」では、区平均よりも4ポイント以上、目標値よりも6ポイント以上下回っている。しかし、「言葉の学習」に関しては区平均、目標値ともに上回り、言語に関する内容は定着しつつある。 (調)学年として漢字を書くこと、文章を書くことに課題がある。 (学)字の形を整えて書くことに個人差がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・決められたテーマについて自分の考えをもち、文章にしていことに苦手意識がある児童がいる。 ・既習の漢字を正しく丁寧に書くことに、個人差が見られる。 ・言語に関する内容が定着してきているので、さらに「学習した内容を整理し、活用する力」を伸ばしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・デジタルドリルを活用し、個人の課題に適した学習を進め、個別最適化学習を推進する。 ・多くの活動の中で、自分の考えをもち、それを文章化する機会を増やす。 ・国語の授業の中で、言語活動に特化した時間を設け、文字や言葉に意識させる。 ・ワークテストで80%に到達しなかった児童に対して、繰り返し練習させたり、フォローアップワークシートを活用したりしながら、習熟を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・デジタルドリルを活用し、家庭学習や授業中の適用問題に取り組ませ、個人の課題に適した学習を進めることで、既習の漢字を正しく丁寧に書く力が身に付いてきている。 ・主述関係などの言語事項の理解にやや課題は残っているが、文章の構成力などは身に付いてきている。 ・国語の授業の中で、音読や作文の時間を多く取り入れることで、言い方を変えたり、文章を推敲したりする姿が多く見られるようになった。 	

6	算数	<p>(調)算数全体で見ると、目標値を上回っているが、区平均より下回っている。 (調)分数の足し算・引き算や単位量あたりの大きさはよく理解している。 (調)奇数の理解や小数のかけ算・わり算、作図に課題がある。 (学)自分の考えと友達の考えの共通点や相違点に意識して考えを深めようとする事が定着していない。</p>	<p>・かけ算やわり算では、速く正確に計算する力を身に付けさせる指導が必要な児童が見られる。 ・図形の展開図や見取り図、円や多角形の作図など、コンパスや定規を用いて作図することに苦手意識が見られる。 ・授業において、自分の考えをもち、友達の考えと比べながら考えを深めていくことに個人差が見られる。</p>	<p>・図形領域を中心としてタブレット端末を活用し、図形の展開図や見取り図のイメージを捉えたり、コンパスや定規などの操作を可視化したりする。 ・授業だけではなく、宿題などを通して、四則計算をする機会を増やす。 ・算数の授業だけではなく、その他の授業や日々の活動の中で、コンパスや三角定規を使うような機会を増やし、道具に慣れさせる。 ・自分の考えと友達の考えが見比べやすいようノート指導をする。また、児童に自分と他者の考えの共通点や相違点を意識させるよう発問する。</p>	<p>・単元のまとめでは、タブレット端末のプレゼンテーションソフトや文書作成ソフトを効果的に活用する時間を意図的・計画的に設定した。 ・授業の導入時や終末時に、意図的に計算力を向上させるような復習問題に挑戦する活動を取り入れた。 ・「対称な図形」の学習では、コンパスや三角定規を使う練習問題を意図的に増やし、その他の授業でも活用してきたが、作図や道具の扱いには課題が残る。 ・発問やノート指導を工夫した結果、自分の考えを、根拠をもって説明したり、友達の考えと比べたりする姿が見られたので、今後も継続していく。</p>	
	音楽	<p>(学)音楽活動に興味をもち、意欲的に取り組むことができる児童が多い。 (学)聴いたり感じたりしたことを音楽の言葉で表現する力が十分ではない。また、表現することに苦手意識をもつ児童が多い。</p>	<p>・音楽の要素と曲想などの音楽の用語を使い分けられていない児童が多い。 ・聴いたり感じ取ったりすることはできるが、それを表現することに苦手意識があったり、自信がなかったりする児童が多い。</p>	<p>・表現をタブレット端末で記録して共有することで、自分の演奏を間接的に表現する方法を適宜取るなど、苦手意識を徐々に減らせるようにする。 ・児童が気付いたことや感じ取ったことを要素や曲想に分けて板書したり、似た言葉で補う機会を多くすることで、児童の思考を整理し学習の中で使えるようにする。 ・個人で考えをもつ時間、ペアやグループで考えを出し合ったり比較したりする時間、全体で確認する時間をそれぞれ適宜とり、自分の意見を表現することに慣れる活動を多く設ける。</p>	<p>・タブレット端末を活用して音楽づくりを行ったことで、記譜が苦手な児童も進んで取り組むことができた。 ・音楽を聴き、気付いたことや感じ取ったことをどの活動でも毎回行い繰り返し意識させることで、音楽の要素と曲想に分けて考えられる児童が7割を超えてきた。引き続き繰り返して指導していくことで、学びが深まるようにしていく。 ・ペアやグループでの活動時は必ず相手に意見を伝えるように言葉掛けをした。ペアやグループの話し合いには慣れてきたが、全体の場での発表につながる児童がいるので、タブレット端末を使って、文字で発表し共有できるような活動を工夫して取り組んでいく。</p>	
	図工	<p>(学)創造する楽しさを感じ、表現する基礎的能力が高い児童が多い。 (学)身近な芸術作品について自分なりの見方や感じ方をもってそれを表現する力が十分ではない。</p>	<p>・楽しみながら活動に取り組む児童は多いが、じっくりと考えたり、作品をつくり込んだり等、学習を深めることが難しい児童が多い。 ・様々な作品に触れる機会が少ないため、主体的に表現しようとする児童もいる。</p>	<p>・タブレット端末を活用し、資料を探したり、参考作品の画像を参照したり、アイデアスケッチをワークシートで作成したりして、表現を深めていく。 ・表現を深めるために、互いの作品を鑑賞する機会を題材ごとに設け、よさを認め合い、表現への選択肢を増やしていく。 ・チェックカード等を活用し、考えを深めたり、アイデアを広げたりしていけるようにする。 ・表現する意欲を高めるために、材料・環境・友達等、表現と出会う場面の設定を工夫し、感性や想像力を活性化させる。</p>	<p>・各題材の初回の授業において、タブレット端末を活用して画像や資料を検索し、発想を広げるために活用した。しかし、インターネット上のイラストをそのまま作品として表現していた児童もいたため、情報モラルを含めた情報の取扱いについても授業内で指導をする。 ・作品を学級内で鑑賞したり、校内に作品を展示したりして、鑑賞する機会を設けた。自分の学年だけでなく、他の学年の作品も積極的に鑑賞し合っている様子が見られた。 ・粘土を使った作品では、発想が広がるように、チェックカードを活用した結果、想像力が豊かになった。 ・絵本や動画等を活用し、児童が興味・関心をもって主体的に活動に取り組めるよう、導入の工夫を行った。</p>	

調…新宿区学力定着度調査の結果から見える学習状況 学…授業での様子や提出物、作品、ワークテスト等から見える学習の状況 ※分量は2ページ以上となってもよい。

